年度 2009　学期 後期	曜日・校時　　火 4	必修選択 選択	単位数　2
授業科目/(英語名)	人間と環境（ハンディキャップ） Human and Environment（　handicap　）		
対象年次　　1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)　　全学部		科目分類　人間科学科目	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
長尾哲男 / nagao@nagasaki-u. ac. jp / 研究室:保健学科 5F / Tel:849-7994 / 火 1100-1200

担当教員(オムニバス科目等)	村田　潤

授業のねらい/授業方法（学習指導法）/授業到達目標

授業のねらい:

疾病・事故・加齢等に伴う運動機能の障害やそれ等からおこる生活障害等により生じるハンディキャップについて学ぶ。
また、リハビリテーションの観点から身体機能の障害改善のための主体的活動への働きかけや身体の多様な障害から生活障害を惹起させないための多面的な検討を紹介し、障がい者の**生活権保障から社会生活におけるノーマライゼーションを模索することの理解を深める。**

授業方法:

講義・視聴覚資料の視聴・相互の意見交換

授業到達目標:

傷害された機能の再獲得のためのリハビリテーションの概要（特に作業療法視点から）を理解することにより、受動的な訓練と異なった主体的な活動による機能回復や開発を目指す支援方法の理解を深める。また、機能障害を代替する方法の変更・環境調整や機器の利用等により機能の障害を生活の障害とさせない支援について理解できるようにする。

障害者・高齢者等の生活弱者の生活権の存在を理解する。それへの認識を深めて自律的生活遂行における困難な部分において支援を受ける権利の保障についてからノーマライゼーションを模索する視点を身につける。また、支援の企画を理解し提案できるようにする。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)

授業内容（概要）

リハビリテーションの定義の変遷とリハビリテーションアプローチの変遷から障害に対する認識の時代的変化について講義し、身体の機能障害へのアプローチの理念と手法について講義する。
特に運動機能の障害理解や改善のための治療理論と作業療法における活動利用の実際等について講義する。
多様な生活文化と生活技法について講義し、支援の理念や支援方法による功罪について講義する。
後半は四肢の切断・高位脊髄損傷・認知症等の疾病や移動手段・生活環境等の福祉用具、障がい者の性等のテーマについて受講生と協議してテーマ 1～3 程度を絞りそれぞれについて相互に意見交換し、各自が自分の意見としてレポートにまとめて報告することにより理解を深める。

前半は村田、後半は長尾が担当する。

第1回 **リハビリテーションの概論**
第2回 **身体機能制御の仕組み**
第3回 **身体機能と環境適応**
第4回 **身体機能障害の理解と対応**
第5回 **高次脳機能障害の理解と対応**
第6回 **心身機能の加齢に伴う変化について**
第7回 **高齢者の健康支援**
第8回 「機能障害と生活障害の関係」と「支援の理念と環境改善」
第9回 生活用具と彼我の文化の違い　―食文化の歴史的違いから食事用具の違いと障害者用食事用具―
第10回 テーマ 1 の資料提示と説明
第11回　〃　についての検討と意見交換
第12回 テーマ 2 の資料提示と説明
第13回　〃　についての検討と意見交換
第14回 テーマ 3 の資料提示と説明
第15回　〃　についての検討と意見交換 ： まとめ

キーワード	リハビリテーション、ノーマライゼーション、作業療法、障がい者の生活
教科書・教材・参考書	参考書:上田敏リハビリテーションを考える(障害者問題双書) **福祉用具アセスメントマニュアル(中央法規)** 他適宜配布・紹介する 選択したテーマに応じた視聴覚資料を利用する
成績評価の方法・基準等	原則として毎回終わりにその日の学びの深まりについてレポート(100%)を記入し提出する。 出席し小グループでの議論に参加し発言することを通じて理解を深めていくため出席は必須である。 レポートはそれをもとに自らの理解の変化をまとめて作成する。 配点は各回 100 点とし 15 回合計を 15 で除するものとする。
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし，やむを得ず（正当な理由で）欠席する場合は，個別に学習の指導を行う。
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	